

水害をなくしダイオキシン汚染のない安心して暮らせる水都大垣に！

大垣市一般廃棄物最終処分場に高濃度のダイオキシン！

荒崎水害で大谷川洗堰に近い大垣市一般廃棄物最終処分場に水が入り、処分場内外で有害物質の汚染について検査したところ、処分場内のダイオキシンが基準値の27倍の高値を示していたことが明らかになりました。幸い、外には漏れ出ませんでしたでしたが、水害が起こるたびにダイオキシン汚染の危険にさらされることが明らかになりました。(裏面資料)

大垣市12月議会 ダイオキシン対策は何も示さず！

大垣市はこの12月議会で、処分場内に水が入った原因と対応策については明かにしましたが、管理型処分場でなぜ高濃度のダイオキシンが検出されたのか、その原因と対応策については明かにしていません。

本来「管理型処分場」は危険物質が基準値内に抑えられ、埋め立てが終了しても10年間はチェックを行い、有害物質がないことを確認して、その後普通の土地として活用されるものです。このままでは、半永久的に荒崎の遊水地にダイオキシンを抱えることになり、荒崎の住民は、水害のたびに、ダイオキシンの危険にさらされるのです。

共産党は以下のことを要求します

- 1) なぜ高濃度のダイオキシンが検出されたのかその原因と対応策を示すこと。
- 2) 地域住民に情報を公開すること。
- 3) 地域住民と公害防止協定を結び、報告会や立ち入りを義務付けること。

